


# 看護 青い森

vol.  
**113**  
発行日  
2022. 10. 21

## INDEX

- 新卒看護職カフェ・2年目看護職カフェ
- 医療的ケア児対応看護職を支援します!!
- 災害医療と看護(実務編)
- 看護労働環境対策委員会企画  
～ハラスメント対策シンポジウム～
- 潜在看護職スキルアップ研修
- ファーストレベル閉講
- 新型コロナウイルス感染症対策研修
- 新型コロナウイルス感染症対応看護職員  
の人材確保業務
- 青森県健康福祉部長との意見交換
- 青森県教育委員会との意見交換
- 青森県看護協会のあり方検討会
- 職能委員会コーナー
- 支部だより
- 上十三看護管理者ネットワーク「トッパKTS」
- 災害見舞金制度について
- 「manaable」導入スタート!

令和4年度 会員数 8,586人 (昨年10月比 -49人) (令和4年10月3日現在)	保健師 227人 昨年10月比 -13人	助産師 327人 昨年10月比 +6人	看護師 7,709人 昨年10月比 -15人	准看護師 323人 昨年10月比 -27人
---	-------------------------	------------------------	---------------------------	--------------------------

■発行/  公益社団法人 青森県看護協会 ■編集/ 広報出版委員会  
■住所/ 青森市中央三丁目20番30号 県民福祉プラザ3階 TEL (017)723-2857 FAX (017)735-3836  
URL <http://egao-park.net> E-mail [ao.nurse@ceres.ocn.ne.jp](mailto:ao.nurse@ceres.ocn.ne.jp)



## 新卒看護職カフェ

6月末から7月中旬にかけて、県内3市で、入職3~4カ月の新卒看護職を対象にカフェを開催し、45人が参加しました。

看護師等学校養成所教員を交え、4つのキーワード(楽しかったこと、辛かったこと、やってみたいこと、悩んでいること)を付箋に書きながら、思いを共有しました。

参加しての感想として、「他の人も同じような悩みを抱えていることが分かった」、「話すことで心が軽くなった」等聞かれました。看護教員からエールをもらい、参加者の表情からもカフェに参加することで、リフレッシュするとともに、今後のモチベーションにつながったようです。



### 主な意見を一部紹介

- ◆ 楽しかったこと  
採血、点滴の成功、自立
- ◆ 辛かったこと  
先輩とうまくコミュニケーションがとれない
- ◆ 悩んでいること  
人によって指導の仕方が違う
- ◆ やってみたいこと  
患者一人一人とじっくり関わりたい



### 新卒看護職の皆さんへのアドバイス【第1弾】

看護師1年目は誰もが通る道、悩みは付きものです。悩んだ分だけ成長できると言いますが、この時期に開催された“新卒看護職カフェ”は、自分の悩みを言葉で表現し他の施設の方と共有できる、またとないチャンスでした。自己を振り返り、思いを共有できたことで、悩んでいるのは自分だけではないという安心感や、明日からも頑張ろうという勇気が湧いてきた方もいたようです。

今回、参加できなかった方へも情報提供しエールを送るため、新卒看護職の共通の悩みをご紹介します。アドバイスします。

#### ◆ 覚えることが沢山ある

今は、いっぺんに初めてのことを経験しているので、覚えることが沢山あると感じるのは当然です。新人さんはまじめな性格から、全部一気に覚えなくてはならないと焦りますが、その気持ちはどんどん自分を追い詰めていきます。まずは何ができて何が分からないのか整理するだけで不安は半減します。次に覚える項目を一つ一つ学習すること、焦らずにコツコツ積み上げていくことで、3か月後は自信が持てるはずです。

#### ◆ 受け持ち患者が多くて忙しい

業務に慣れてくると、少しずつ受け持つ患者数が増え、さらに夜勤では看護師の人数が少ない分、多くの患者さんを受け持つようになります。乗り越えなければならない壁ですが、負担を感じる時や焦った時は、一度回りを見渡して深呼吸し、早めに出来ないこと間に合わないことを先輩に相談すると、先輩もフォローしやすいです。できる新人看護師の条件に「適切なタイミングでSOSが出せる」があります。チームで働いているので一人で抱え込まずに、先輩に話して助けを求めめることも大切な能力です。

## 「2年目看護職カフェ」取材しました

8月17日(水)ホテル青森にて初めて「2年目看護職カフェ」が開催されました。男女合わせて20名が参加し、コーヒブレイクを挟みながら職場で感じていることなどを話し合いました。

また、神奈川県立保健福祉大学に在籍されている吉田穂波氏をオンラインでお招きし、『あなたは頼っていい～受援力のススメ～』と題された講演をしていただきました。『受援力』とは、他者に助けを求め快くサポートを受け止める力のことをいい、2010年東日本大震災をきっかけに少しずつ知られてきた言葉です。

「2年目になってわからない事を聞きづらくなった。」「夜勤の時に重症の患者が入院してきたらどうしよう。」「周りとの経験の差が不安。」など話していた参加者たちも、グループワークで『受援力』を体験すると、「受援力

を発揮して人間関係を良くしていきたい。」「1年目の子にも教えてあげたい。」「感謝の言葉を口に出していきたい。」と前向きな考えを持った様子でした。

吉田氏より「頼り・助けられ上手は、人を助け上手である。2年目のうちにぜひ頼り上手になってほしい。」と心温まるエールをいただくと、会場からは大きな拍手が起こりました。

“受援力は受縁力。頼ることは甘えではなく、新しいネットワーク作りやコミュニケーションの一つであり、自分の責任であっても困った時は助けを求めてもよい。”コロナ禍で今まで以上に多忙で不安な毎日ですが、相手を信頼し助け合いながら、少しずつ前に進んでほしいと思いました。

記：広報出版委員 阿保 牧子



### ◆先輩に聞きにくい

聞いた時に相手にどう思われるかが不安、先輩看護師の反応が怖い、逆に心配をかけたくないなどの心理が色々あるかと思いますが、患者さんへの安全な看護の提供が一番です。私たちは看護師免許を持って仕事をしています。1年目は何を聞いても大丈夫です。聞かずに確認しないまま行って患者さんにご迷惑をかけてしまうより、確認して実施した方が安心です。先輩看護師も同じように考えています。コロナ禍で人手不足と多忙な状況がありますが、心配しないで聞いてください。

また、「迷った時は先輩に聞く」と自分の中でルール化しておく

と、迷わずスムーズに行動に移せす。何を言われても傷つかずに、「自分で決めたルールだから」と諦めがつき、心も強くなります。これは、今後医師に報告すべきかどうか迷う瞬間にも使えます。「自分は今迷っている、こんな時は報告する」と決めておくと、タイムリーに報告ができます。迷っている時間がもったいないです。成長とともに迷わずに判断し行動できるようになりますが、ベテランになってからも、このルールは活かされます。人間は悩む動物だから…是非試してください。

第2弾も  
お楽しみに!



\* 悩みがある方は「新卒看護職離職防止相談窓口」もご活用ください！  
専用電話：080-8201-3407（毎週 火・金曜日 13:00～16:00）  
専用E-mail：support@egao-park.net（24時間受付）



# 医療的ケア児対応看護職を支援します!!

青森県看護協会では、様々な形で医療的ケア児に携わる看護職を支援しています。その取り組みを紹介いたします。

## その1 保育所等に勤務する方への技術研修(県こどもみらい課からの委託事業)

令和元年9月の調査によると、県内には166名の医療的ケア児が存在し、そのうち就学前児童は71人います。その子供たちを受け入れ可能とする保育所等は県内に58施設、実際に受け入れているのは12施設のみです。医療的ケア児を受け入れる保育所等をもっと増やすことを目的に、1回目は保育士等、2回目は看護職を対象に技術研修を開催しました。



保育士等対象：7月6日



看護職対象：8月20日

## その2 在宅医療的ケア児支援普及啓発研修(県障害福祉課からの委託事業)

令和4年7月8日(金)リンクステーションホール青森にて、医療的ケア児支援の概要や医療的ケア児支援で活躍する看護職の活動を紹介します。普及啓発を図ることを目的に、研修を開催しました。



### プログラム

行政説明

「青森県における医療的ケア児支援の現状について」

青森県健康福祉部障害福祉課 社会参加推進グループサブマネージャー 主幹 岩谷 玲子 氏

講義

「医療的ケア児支援の概要について」 青森県小児在宅支援センター センター長 網塚 貴介 氏

「医療的ケア児支援で活躍する看護職について」

- ①訪問看護の現場から 訪問看護ステーションやよい 管理者 齊藤 孝子 氏
- ②放課後デイサービスの現場から 児童発達支援センター花りんご 看護師 葛西 京子 氏

\*11月27日(日)「医療的ケア児支援フォローアップ研修会」を開催予定です。  
興味のある方はご参加を!!詳細はホームページで!

9月10日(土)リンクステーションホール青森にて、特別支援学校ならびに保育所等に勤務する看護職者のネットワークを構築し、連携を深めることを目的に、交流会を開催しました。  
施設種別ごとに行った意見交換は時間が足りないほど活発に行われました。

### プログラム

#### ◆事例提供「現場で感じる連携の必要性」

①幼保連携型認定こども園 小さな森こども園

伊藤 綾乃 氏

②弘前第二養護学校

川原 郁恵 氏

③多機能型事業所リハステーション コウノトリ

荒川 志気 氏

#### ◆意見交換(フリートーク)

#### ◆情報提供「医ケア児をとりまく青森県の現状」

青森県健康福祉部障害福祉課  
社会参加推進グループサブマネージャー

主幹 岩谷 玲子 氏



医療的ケア児対応に限らず、訪問看護を体験してみませんか？  
県内の訪問看護ステーションで訪問看護を体験できます。  
申し込み締め切りが**11月末**となっておりますのでお早めに!!  
詳細はホームページをご覧ください。

## 訪問看護推進事業のお知らせ

### ◆訪問看護事業所実地研修

認定看護師からの助言や指導を受け、看護技術や知識をブラッシュアップしてみませんか？

**実施期間：令和4年10月～令和5年1月(申込締切は10月末)**

派遣する分野は下記のうち、いずれか1つお選びください。

①感染管理 ②皮膚・排泄ケア ③緩和ケア

申し込み方法等については、ホームページをご覧ください。

### ◆訪問看護に関する相談窓口開設

訪問看護に関するお悩み相談を受付いたします。

相談のある方はメールアドレス：

houmon-soudan@egao-park.netまで。



## 「災害医療と看護（実務編）」研修を開催しました!!

令和4年9月8日(木)東奥日報新町ビルにて今年度の「災害医療と看護(実務編)」を開催しました。

国際医療福祉大学大学院の内海清乃先生を講師に、机上シミュレーションを主として行いました。実務編受講者の皆さまには、ぜひ災害支援ナースへ登録していただきたいと思っております。災害支援ナースの育成は地域医療への貢献です。看護管理者様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



【参考資料】災害支援ナース登録者数の推移



今年度の災害支援ナースフォローアップ研修は、11月4日(金)リンクステーションホール青森で行います。避難所における精神疾患対応、情報伝達訓練を予定しています。災害支援ナースの皆さん是非ご参加を!!

## 看護労働環境対策委員会企画～ハラスメント対策シンポジウム～



9月3日(土)に「こしてらいねよ!ハラスメント」と題して、シンポジウムを開催しました。コロナ感染拡大のためキャンセルは多々ありましたが、58名が参加しました。

ハラスメントは誰もが遭遇する可能性がある「みんなの問題」であり、マニュアルを作成して終わりではなく、生きたものとしなくてはならない。外部組織の力を借りることも時には必要・・・などなど、実践可能なお話をたくさん聞くことができました。

皆さんで“働き続けられる環境づくり”をしていきましょう。

### シンポジウム テーマ 「こしてらいねよ!ハラスメント」

座長 青森県看護協会看護労働環境対策委員  
副委員長 村上 眞須美

#### シンポジスト

- ・日本看護協会ハラスメント対応窓口担当 奥村 元子 氏
- ・医療勤務環境改善支援センター 齋藤 勝美 氏
- ・三沢市立三沢病院 主任看護師 大野 弥生 氏
- ・社会福祉法人楽晴会 理事長 齋藤 淳 氏





## 「潜在看護職スキルアップ研修」(日本看護協会からの委託事業)を実施しました。



新型コロナウイルス感染症に関する知識・技術の習得を目的に、「医療安全」と「感染対策」について、講義と演習を行いました。3市で計4回開催され、潜在看護師等53名の方が参加しました。

「医療安全」では針刺し事故防止機構付き製品の紹介や、実際に吸引・経管栄養のチューブ挿入などの演習を行いました。また、「感染対策」では、防護具の着脱や手指消毒について指導を受け、「いつか臨床に戻れたらと思えた」、「演習が多くて満足」、「技術面で不安に思っていることについて指導を受けることができた」などの声が多く、継続して研修を希望したいという意見がありました。



参加した皆様からいただいた質問に対して、青森県看護協会医療・看護安全委員から助言をいただき、一部抜粋ですが回答を紹介します。

### Q & A



**Q** 経管栄養剤の注入について、以前は栄養剤の注入後に水分を入れたが、現在の施設では「水分が先」と言われた。それは正しいのか。



**A** 栄養剤を先に入れ、その後に水分を入れた場合、胃内容量が増加し逆流や誤嚥のリスクが高まります。水分が先の場合は、栄養剤が入るころには水分が排泄されるので、リスクは低減されます。胃食道逆流が疑われる場合の対応として、水分の先行投与が有効です。



### 訪問看護師ブラッシュアップ研修

#### テーマ 「在宅における摂食嚥下」

**日時** 令和4年12月2日(金) 10:00～15:00

**場所** 県民福祉プラザ

青森慈恵会病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 丹藤淳氏を講師にお招きして開催します。  
教育計画P16の受講申込書でお申し込みください。

ナースセンターの今後の予定は、詳細が決まり次第ホームページにアップします

# 認定看護管理者教育課程ファーストレベル

## ファーストレベル、終了しました！

令和4年度認定看護管理者教育課程ファーストレベルが無事に終了しました。今年度は5月13日から6月30日までの間で、20日間参集を基本にして開講し、87名の方が受講しました。

病院所属の受講が主ですが、例年1～2名いる施設等所属の受講者が今年は4名おり、少しずつですが裾野の広がりを感じます。

ネットワーク作りも盛んで、受講中の皆さんの生き生きとした様子が今でも浮かんできます。

どうぞ、皆さんもファーストレベルを受講してみませんか？ お待ちしております!!

認定看護管理者教育課程 専任教員 松本 誠子



## 認定看護管理者教育課程ファーストレベルを受講して

健生訪問看護ステーションたまち ちとせ支所 奈良岡由佳

令和4年5月13日～6月30日に認定看護管理者教育課程ファーストレベルが開催され、県内各地から87名が参加しました。今年度はCOVID-19の感染対策を行いながら、会場に全員が参集しての開催となりました。

研修では、看護管理者としての心構えや様々なマネジメントの方法を学びました。研修の中で今後さらに地域包括ケアが推進され、看護師の活躍する場は病院にとどまらず地域へと広がっていることを感じました。

看護師が質の高い看護を提供するためには看護管理を学び、組織の向上に努めていく必要があります。また、この研修では同じような悩みや課題を抱えた仲間と出会い、たくさんの刺激や学びを得ることができました。

ファーストレベル研修はこれまでの自分を振り返り、これから自分がしなければならないことを導いてくれる研修だと思います。病院で働く看護師だけではなく、在宅で働く看護師にもぜひ受けて欲しいです。



青森県看護協会が  
認定看護管理者教育機関として  
認定されました。

2022年7月1日付で、当協会が日本看護協会からセカンドレベルおよびサードレベルの認定看護管理者教育機関として認定されました。

当協会は今後、標記教育機関として認定看護管理者教育課程に係る事業を運営してまいります。皆様の受講をお待ちしております。





## 令和4年度一時保護所等体制強化事業 新型コロナウイルス感染症対策研修会

青森県看護協会では県からの委託を受け、一時保護所等体制強化事業を行っています。その一環として児童相談所一時保護所職員及び児童養護施設等職員を対象に、新型コロナウイルス感染症対策研修会を令和4年7月26日(火)に開催しました。

研修は、青森労災病院 感染管理認定看護師 渡辺季代子氏に『ゾーニングの考え方』と題し講演していただき、防護具の着脱も参加者全員で行いました。

参加者16名のアンケート結果では参加者全員が「参考に

なった」と回答しており、満足度の高い研修会となりました。感想の中には「普段基本的な感染予防を行っているが、話を聞いてまだ徹底できるところがあると再確認できた」、「事前に着脱の演習をしておけば、いざ防護具を着て作業するときに困らなと思った」、「実践することで汚染部とそうでないところの区別の難しさをより実感した」という意見もあり、参加者の感染予防に対する意識を高めることができました。



研修の様子



PPE着脱のやり方について講義する渡辺氏(右)



演習の様子

### 令和4年度 新型コロナウイルス感染症 対応看護職員の人材確保業務 実施報告

### 派遣調整に係る進捗状況報告

#### 【2地域病院への看護職員の派遣調整について】

M病院(上十三地域)	病 院 名	T病院(三八地域)
4月15日	派遣要請依頼	8月12日
4月19日～26日(8日間)	派遣期間・日数	8月15日～17日(3日間)
東青A病院より1名 東青B病院より1名 中弘南黒C病院より1名 三八D病院より3名 三八E病院より3名 ※延べ26名	派遣看護職	三八A病院より1名 三八B病院より1名 ※延べ6名

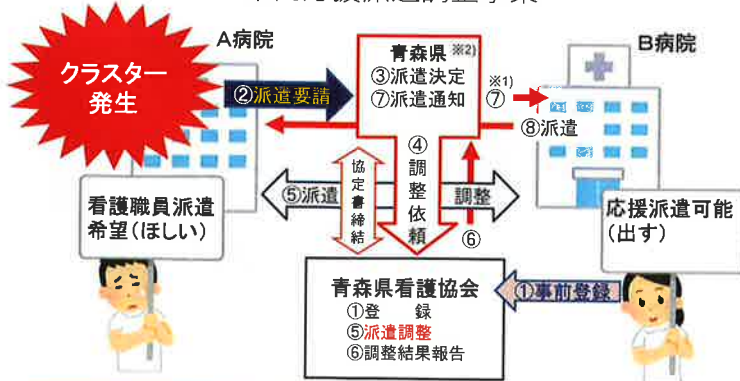
#### 【調整の流れ】

- 1 青森県から派遣要請
- 2 看護協会で派遣先ニーズ把握
- 3 看護協会が登録病院等に依頼
- 4 看護協会が日程調整をし、県へ回答
- 5 看護協会が派遣計画作成
- 6 適宜、看護部長に情報提供
- 7 派遣
- 8 県へ報告

公益社団法人青森県看護協会

参考資料

地域の医療提供体制確保のための看護職員の派遣調整事業  
一 県内応援派遣調整事業一



※1) 支援医療機関と青森県が契約を締結し、青森県から委託料が支払われます。  
※2) 中核市に派遣する場合、支援医療機関は中核市と契約を結び、中核市から委託料が支払われます。

#### 登録のお願い

青森県看護協会では看護職員の派遣調整事業としてご協力いただける医療機関の登録を募集しております。

当協会ホームページ「各種様式ダウンロード」にあります「支援医療機関登録票」にご記入の上、看護協会へご連絡をお願いします！

### 令和4年度青森県看護協会と県健康福祉部長との意見交換会

令和4年7月12日(火)青森県庁にて健康福祉部長との意見交換を行いました。青森県健康福祉部からは永田部長を含め関係課から8名ご出席いただき、当協会からは会長はじめ役員6名が出席しました。

意見交換では「看護職員の確保・定着」について、現状の課題と当協会の取組みや対策例を説明しました。

また「地域の感染予防ネットワーク事業」について具体的な事業についての提案を行い、永田部長から前向きに取り組む旨の回答をいただきました。

今後も、青森県との連携を強化し、当協会の目的を実現するための取り組みを行ってまいります。



### 令和4年度 県教育委員会との意見交換会



令和4年8月26日(金)青森県庁にて県教育委員会との意見交換を行いました。教育委員会から8名、看護協会から役員5名が出席し、以下の項目について話し合いました。

- ・学校等における医療的ケアの実施について
- ・学校看護師の現状について
- ・看護協会における医療的ケア関連事業について

当協会では重点事業の一つとして取り組んでいる「母子のための安心・安全な地域包括ケアシステムの構築」において医療的ケアにも力を入れており、今回の意見交換はその一環として、とても有意義なものであったと感じられました。

### 青森県看護協会活動のあり方検討会

令和4年9月6日(火)に第1回青森県看護協会活動のあり方検討会を開催しました。この検討会は、看護の使命である「人々の健康な生活の実現」に貢献するため、今後の看護協会活動のあり方を検討し、本会の活動方針を策定することを目的とし、医師、町長、大学教授、訪問看護ステーション所長等から構成されています。

榎谷看護協会長より「コロナ禍だけでなく、社会の情勢が大きく変化し、価値観も多様化している。このような中で私たちは一体何をやる人で、何に取り組むのか、何を大事にしていきたいのか、そういうことを確認して先に進みたい。今一度立ち止まって考える時期なのではないか」と思い、検討会を開くことにした。」と挨拶があり、今回は設置の経緯や成果物の構成等に



ついて話し合いました。

2040年を見据えた将来に向けて、本会が取り組んでいく活動の方向性をしっかりと検討していき、県内の看護職の皆さんにとってわかりやすい道標を示せるよう回を重ねていきたいと思っております。



## 産後ケア事業交流会

助産師・保健師  
職能委員会合同企画

8月27日(土)、県民福祉プラザにおいて助産師・保健師職能委員会合同企画である産後ケア事業交流会が青森県の共催を受けて開催されました。ハイブリッド研修で当日は会場に9名、zoomで46名、計55名の参加がありました。

前半は、Web講演にて「コロナ禍における安全・安心な地域包括ケアシステムの推進～混合病棟の中で妊産褥婦に必要なケアを提供するために必要なこと～」と題して日本赤十字社 姫路赤十字病院 看護副部長 太田加代氏より講演していただきました。後半は、十和田市健康福祉部 健康増進課 子育て世代親子支援センター 保健師 山田千尋氏と八戸市立市民病院 看護師長 母性看護専門看護師 古屋敷智美氏より「産後ケアの取り組み」について情報提供していただきました。

前半の姫路赤十字病院の太田先生の講演では、産後ケア事業に取り組むことになったきっかけや混合病棟における産後ケア導入に必要なこと、行政との連携やスタッフの協力など具体的な産後ケア導入までの取り組みを知



十和田市 健康福祉部 健康増進課  
子育て世代親子支援センター  
保健師 山田千尋氏



八戸市立市民病院 看護師長  
母性看護専門看護師  
古屋敷智美氏

ることができました。また、入院患者が優先されるために産後ケアで使用するベッドの確保が困難であることや里帰りの方が利用できない状況など、産後ケアの課題とコロナ禍における課題も知ることができました。さらに、産後ケア実施までの行政との連携方法、周産期看護管理者のネットワーク構築、周産期医療協議会への参加の意義、看護管理者としての取り組みなど、兵庫県内の連携の様子も学ぶことができ、青森県でこれから産後ケア事業を進めるための参考になり、課題解決に向けた糸口となるものでした。

目指すところは、すべての妊産褥婦と新生児に助産師のケアを提供していくことだと太田先生は述べておられました。

すべての女性が住み慣れた地域で安心して安全に妊娠・出産・育児ができるように助産師ケアを提供していきたいと思える研修でした。

記:助産師職能委員会 委員 三平留衣子(青森市民病院)



青森県子どもみらい課長から  
開会の挨拶



日本赤十字社 姫路赤十字病院  
看護副部長 太田加代氏

## 青森県災害時小児周産期リエゾンナース 活躍!!

青森県看護協会 前助産師職能委員長の橋爪直美(青森県災害時小児周産期リエゾンナース)氏が青森県社会福祉協議会の依頼を受け、災害時において未だ課題の多い母子支援について理解を深めるため「青森県災害福祉支援チーム員スキルアップ研修Ⅰ」の中で「災害時の母子支援について」と題し、講義を行いました。

研修は令和4年9月29日(木)から3日間のプログラムで行われ、県内の福祉施設職員14名の参加がありました。他職種の方々にも母子支援の必要性等を考えていただける機会となりました。



講師の橋爪氏



研修の様子

## 看護師職能委員会 I 報告

### 外来看護師の在宅療養支援に関する事例検討会

看護師職能委員会 I は、今年度の委員会目標である

1. 地域包括ケアにおける看護提供体制を推進する事業
2. 地域住民の生活を支えるための看看連携を推進する事を達成する事業

として、7月30日「外来看護師の在宅療養支援に関する事例検討会」を青森県労働福祉会館で開催いたしました。

事例発表では青森県立中央病院の高田美香氏から「看護専門外来と外来看護師との連携」について、八戸平和病院の佐藤千恵美氏から「患者のニーズに沿うための外来看護師の役割」について、とみもと小児科クリニックの山縣礼子氏から「クリニックにおける外来看護師のかかわり」について、自治体病院、私的病院、クリニックと規模や設置母体が異なる立場からご発表頂きました。

その後、質疑応答があり、現場レベルでのより具体的な方法への質問や、患者ケアの難しさについての活発な意見交換がありました。外来看護の難しさや悩みを共有でき、発表者からの助言が、今後のケアを進める上でのヒントや活力となりました。また、医師の参加もあり、自クリニックで大事にしているケアについて話を聞くことができたのも貴重な体験となりました。



青森県立中央病院  
高田美香氏



八戸平和病院 佐藤千恵美氏



とみもと小児科クリニック  
山縣礼子氏



会場の様子

また、講演では弘前医療福祉大学保健学部教授 工藤うみ先生より「外来看護に活かす対象理解の視点」についてご講義頂きました。入院と在宅診療の相違点や、生活者である患者への捉え方や視点の違いを、外来・在宅看護における理論、モデルを示し、日頃の看護場面に合わせて分かりやすくお話して頂きました。



弘前医療福祉大学  
工藤うみ氏

アンケートでは、「外来で気にかかる患者を捉える視点を学んだ」、「事例が具体的で活用できる点は職場に伝えたい」、「今後も事例検討会や意見交換会を行ってほしい」などの記載がありました。

事例検討会、講演ともに外来看護師の在宅療養支援について、実りのある会となりました。

記：看護師職能委員会 I 委員  
森 あやこ(むつ総合病院)



とみもと小児科クリニック 院長



参加者から質問も多数ありました

## 看護師職能委員会 II 報告

### 「BCP実態調査報告及び研修会」を開催!

令和4年9月17日(土)にアップルパレス青森で「BCP実態調査報告及び研修会」を開催しました。当日は46名の参加があり、訪問看護ステーション、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム等の管理者や施設長、看護介護部門の長、相談員など様々な役職の方に参加していただきました。

前半は、看護師職能委員会 II の吉田委員長より委員会で実施した「県内介護施設・事業所におけるBCP策定状況に関する実態調査」の結果報告をし、秋田市にあります特別養護老人ホーム リンデンバウムいずみの施設長である豊嶋直美氏より「介護施設でのBCPの取り組み」について

ご講演を頂きました。

後半は、参加者を11グループに分け、自施設でのBCP



実態調査報告をする吉田委員長



講師の豊嶋直美氏



## 今年も1日介護施設見学ツアー(八戸地区)を実施しました(^ ^)/

### 見学の様子▶



令和4年9月28日(水)に医療機関勤務の看護師を対象に1日介護施設見学ツアーを開催しました。このツアーは、医療機関と介護事業所相互の看護師が、業務内容等を理解し、切れ目のないサービスの実現にむけ実施しており、3年目の今年は八戸地区開催となりました。参加者は6名で、特別養護老人ホーム八戸素心苑、介護老人保健施設ひばりの里、有料老人ホームクローバーズピア八戸ひまわりの家の3施設にご協力いただきました。施設内を見学させていただき、その後、介護施設の種類と特徴の説明、日常生活の中の看護と介護の役割、多職種や地域との連携の現状について、各施設より丁寧にご説明いただきました。訪問看護ステーションの見学は出来ませんでしたが、訪問看護ステーションに勤務している当職能委員が業務内容を見学終了後の意見交換時に補足説明しました。

介護施設の個々の特徴はありながらも、参加者からは「施

設看護の役割」について多くの質問がなされました。見学終了後は、参集した八戸市津波防災センターに戻り、参加者と看護師職能Ⅱ委員と意見交換を行いました。参加者からは、「施設の特徴をふまえた退院調整に役立てたい」、「医療機関看護師と施設看護師の業務の違いがあり、『その人らしさ、暮らし』に沿った施設看護師の業務の大変さを痛感した」「同職異種の理解に繋がった」「生活の場としての施設看護の理解は地域包括ケアシステムの一役であり『介護施設の種類・特徴』『施設看護業務』を病院職員に伝え相互理解に努めていきたい」と意見、感想が多く聞かれました。

看護師職能委員会Ⅱでは、医療機関の看護師と相互理解の継続推進に努めて参ります。引き続き、看護師職能委員会Ⅱの活動にご理解とご協力の程、どうぞ宜しくお願い致します。

記：看護師職能委員会Ⅱ 委員 上野 公子(個人会員)

### 見学後の意見交換の様子▶



## 参加者の声

今回ツアーに参加した理由は、それぞれ施設の役割や特徴を学ぶことで、当院の急性期～ターミナルの患者の特性に合った医療連携に繋がっていきたく考えたからです。

実際に見学し、それぞれ施設で共通していることは、「生活の場」を提供しているということでした。しかし、ただ生活の場を提供しているだけではなく、施設で働くスタッフ達は常に身体状況のアセスメントや必要とする医療ケア、リスク管理など様々なマネジメントも同時に行い実践

八戸市立市民病院 赤坂 美保

しています。命と生活の場を守るため、利用者目線での環境作りや工夫を惜しまない施設のスタッフの姿勢に非常に感銘を受けました。

私たち病院勤務者が行うべき医療連携は、入院以前の生活情報を元に、ADL低下予防・残存機能維持向上のケアを行い、治療終了後もその人がその人らしく生きていくために必要なサポートは何かを常に患者・家族と共に考え、次の生活の場に繋げていく支援である事を学びました。

策定の進捗状況や困っていること、問題点等について意見交換を行いました。その後、いくつかのグループから発表していただき、施設で困っていることについては豊嶋先生よりの確かなアドバイスをいただきました。

最後は重点事項の一つでもある、「高齢者施設看護管理者のネットワークづくり」について今後の活動計画、研修等を吉田委員長より案内をいたしました。

アンケート結果からも「グループワークで他の法人の状況を知ることができてよかった」「講演を聞いて、BCPは作成しているが再度施設で検討する必要があると思った」等の意見が聞かれ、これからBCPを作成する施設、また、すでに策定を終えている施設にとっても十分役に立つ研修内容

だったと思います。

今回の研修会では介護施設の中から多職種にわたり参加していた



グループワークの様子

だき、関心の高さがうかがえました。「BCP早期完成」へのプロセスとして「方向性と協働と勇気」をいただいた有意義な機会となりました。

記：看護師職能委員会Ⅱ 委員 上野 公子(個人会員)

## 東青支部

### 研修会場の変更について

日頃より、支部活動にご理解ご協力を頂き感謝申し上げます。この度、多くの方々に参加できるように、交通手段の利便性に配慮し「秋の研修会」の会場を、県民福祉プラザから青森新都市病院3階講堂に変更致しましたのでお知らせいたします。

会場へのアクセスに鉄道やバスをご利用の際は、新青森駅から徒歩1～2分です。また、自家用車をご利用の際は、立体駐車場(D&G)を無料でご利用いただけます。

会員の声に耳を傾け、支部活動に反映させていきます



と考えております。ぜひ、ご参加頂きご意見ご感想をお聞かせいただければ幸いです。

記：支部長 角田 つね

## 中弘南黒支部

### artと看護、そして中弘南黒支部

artとは、芸術・技術・専門の技術などの意味がある。

弘前の煉瓦倉庫が美術館に変わった2002年、ボランティア市民450人以上で組織する実行委員会を立ち上げ、公的な助成を受けずに運営され大成功を納めた奈良美智展。ここでこの組織力にはどんなart(技)があったのだろう。

私たちの看護だって、いのち・暮らし・尊厳をまもり支えるために、あらゆる専門知識・技術を駆使している。これってある意味artではないか!?

中弘南黒支部では令和4年11月5日「ストレス解消しよう！体を動かして心も体もリフレッシュ」と題して学習会を開催予定です。リフレッシュして、あーっと (art) 驚く看護をしよう!!



弘前れんが倉庫美術館

記：支部長 宇野美和子

## 三八支部

### 頑張るぞ！三八支部 ～今後の活動～

今年度の活動も残すところ、あと半年ほどになりました。上半期は新型コロナウイルス感染症第7波により、役員会を急遽書面で実施するなどの対応に追われました。

9月下旬頃より少しずつ感染者も減少し、三八支部では10月の健康パネル展、11月の看護実践報告会と立て続けに大きな活動を控えています。パネル展では新型コロナウイルス感染症予防のポイントを市民の皆様に関わりやすく伝えていきたいと考えています。また、2年連続で中止となった、看護実践報告会はハイブ



ハイブリッドでの役員会

リッド方式での開催に向けて、実行委員を中心に役員一同頑張っているところです。

記：記録係 小山 祐子



## 西北五支部

五所川原市主催「認知症フォーラム」に参加して

9月23日(金)五所川原市オルテンシアで～地域の輪で認知症の方を支えよう～というテーマで開催され、西北五支部として参加しました。

2つのブースを設置し、つがる総合病院皮膚排泄ケア認定看護師の松宮むつ子さんと花王(株)による「おむつの選択と正しい装着方法について」、(株)クリニコによる「経口摂取低下時の栄養補助食品の活用について」を参加者の悩みを聞き、解決策についてアドバイスさせて頂きました。

また、何でも相談コーナーでは精神科認定看護師の中村友美さんが相談に対応し専門職として活躍することが出来ました。地域を守る多職種が一丸となり、コ



参加スタッフで1枚！

ロナ禍ではありますが大変充実した時間を過ごすことが出来ました。

記：庶務係 鈴木 洋子  
支部長 原田真輝子

## 下北支部

ワクチン大規模接種にむけて

暑すぎる夏が終わり、日に日に寒い日が増えてきた下北半島ですが、新型コロナ対策は隔離期間の短縮やオミクロン対応コロナワクチンの接種方針が発表され、むつ市でも大規模ワクチン接種の予定が発表されました。

Withコロナ生活も3年が経ち、中止されていた地域のイベントやお祭りなども行われることが増えてきました。まだまだコロナに追われて日々の業務は続いています。Withコロナでもあまり制限なく暮らすことができるようお願い、大規模接種や職域接種の依頼があれば頑張って取り組んでいきたいと思えます。



会場となった克雪ドーム

記：広報担当 林 優子

## 上十三支部

看護ケア検討会開催に向けて

今年も看護ケア検討会開催の時期が近づいて参りました。上十三支部では春の看護研修会でアドバンス・ケア・プランニング(以下、ACP)をテーマに十和田市立中央病院の丹野先生に講義をして頂き、今回は緩和ケア認定看護師、ケアマネジャー、訪問看護師の3名からACPの実際の活動について講義、意見交換をしていきたいと考えております。

コロナの第7波はやや収束してきておりますが、油断は禁物!!今回もリモート形式での開催となりますので、会員の皆様は感染を気にせず、ぜひ多数ご参加下さいますようよろしくお願い致します。

記：記録係 滝澤 敬子



丹野医師による「ACPと在宅医療について」看護研修会を受けて



## 上十三看護管理者ネットワーク『トツパKTS』

※「トツパKTS」とは上十三看護管理者ネットワークのネーミングです

支部管内の看護職が情報共有や連携等を図るため、看護管理者のネットワークが必要であることから、青森県看護協会ではネットワークのモデル支部を立ち上げ、その支援を行うことになりました。

十和田市立中央病院の築場看護局長から、「以前から看護管理者のネットワークを立ち上げたいと思っていた」と伺っていたため、モデル支部は「上十三支部管内」、リーダーは「築場看護局長」と、ネットワーク構築に向けてとんとん拍子に進みました。

築場看護局長が声をかけ、11ヶ所の病院・診療所から賛同をいただき、令和4年9月14日に第1回目の会合がリモートで行われました。会では目的や運営方法、研修会のテーマ等について意見交換を行いました。「初めは医療機関の看護管理者でスタートするが、定着してくれば訪問看護や介護施設等の看護管理者等の参加も視野に入れている」と築場看護局長より頼もしい挨拶がありました。

このネットワークが看護管理者同士、顔の見える形で連携し、情報共有が図られ、地域の包括ケアシステムの推進につながればと看護協会では願っています。

ネットワークの進捗状況については随時、皆様へお知らせいたします



会合の様子

## 災害見舞金制度について

令和4年8月、県内各所でも豪雨による災害が発生いたしました。当協会及び日本看護協会では会員の皆様に対して災害見舞金制度を設けております。今回の豪雨により被災された場合は、当該制度をご利用ください。

申請につきましては、支部長がとりまとめますので、以下に記載の書類についてご準備のうえ、各圏域の支部長にご連絡くださいますようお願いいたします。

【対象者】 青森県看護協会の会員であること      【申請書類】 罹災証明書(またはこれに準ずる書類)

- 【申請の流れ】
- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| ①罹災証明書を準備し、支部長へ連絡    | ④日本看護協会から当協会へ見舞金の振込後、 |
| ②支部長から当協会へ被害状況調査票を提出 | 当協会の見舞金と併せて本人へ現金書留にて  |
| ③当協会から日本看護協会へ同調査票を提出 | 交付                    |

## 思春期応援隊員募集

県内の中学・高校へ出向いて実施する「看護の出前授業」の講師となる思春期応援隊員を募集しています。ご協力いただける方は、当協会ホームページ「各種様式ダウンロード」に掲載の「思春期応援隊」登録届に必要な事項を記入・押印の上、事業・ナースセンター課まで郵送をお願いします。



研修一覧検索 & 研修申込サイト

manaable



「manaable」導入スタート!

研修等管理システム「manaable」が  
8月に運用開始しました。

今回は「第51回 青森県看護学会」の申し込みのみを当システムで受け付けました。令和5年度からは、すべての研修において「manaable」で受講申し込みを受付いたしますので、当システムの利用者登録はお早めにお手続きをお願いします。

【重要】初めてのシステムということもあり多数のお問い合わせをいただいております。施設取りまとめでお申込みいただいた場合でも、参加者個々に利用者登録が必要です。ご登録がされていない場合、学会誌が発送できないことをごさいますので未登録の方は速やかにお手続きをお願いいたします。

「manaable」専用問い合わせメールアドレス: manaable@egao-park.net